

市町村名 伊平屋村

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1 - 商工観光産業支援事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 3 - (12) - ア
担当部課名	観光交通課	事業実施(予定)年度 平成24年度～令和3年度	観光リゾート産業の振興
		沖縄振興基本方針該当箇所	- 1 - (1)

事業内容 伊平屋村の観光振興を図るため、伊平屋島観光協会へ支援(観光誘客プロモーション、観光情報発信等)を行う。

効果発現年度 当年度 後年度(年度)

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a)当初予算額	12,218	10,211	20,058	15,238	17,192
	(b)予算現額	12,218	17,058	19,911	17,470	17,192
	(c)増減額(b-a)	0	6,847	147	2,232	0
	(d)繰越額	-	0	0	0	0
	A.計(b+d)	12,218	17,058	19,911	17,470	17,192
	B.執行済額	12,218	15,027	17,972	16,282	17,192
	うち交付金充当額	8,812	12,021	14,377	13,025	13,753
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	100.0%	88.1%	90.3%	93.2%	100.0%
	予算の状況の説明	教育旅行受入が増えたことで超過勤務が発生し、人件費が増額となったが、予算執行は概ね計画どおり執行できた。また、村の実績検査に於いては、商工観光に資することが不適と判断したものや、計画していない支出に関しては、交付金を充当せず、交付対象外とした。				

活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況			
		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
・参画民家50軒を目標するべく各地域戸別訪問の実施	目標	(実施)	(実施)	()	()
	実績	実施済	実施済		
・参画民家の参入 50軒	目標	(50軒)	(50軒)	()	()
	実績	52軒	60軒		
・他県PR活動の実施	目標	(実施)	(実施)	()	()
	実績	実施済	実施済		
達成状況説明	・各地域戸別訪問の実施については、各地域戸別訪問の実施を行った。 ・参画民家の参入(50軒)については、高齢により休業する民家が増えつつあり、その減少分を新規参入で維持できるよう、戸別訪問を実施し、目標を達成することができた。 ・他県PR活動については、他県修学旅行フェア等への参加によりPR活動の実施を行った。				

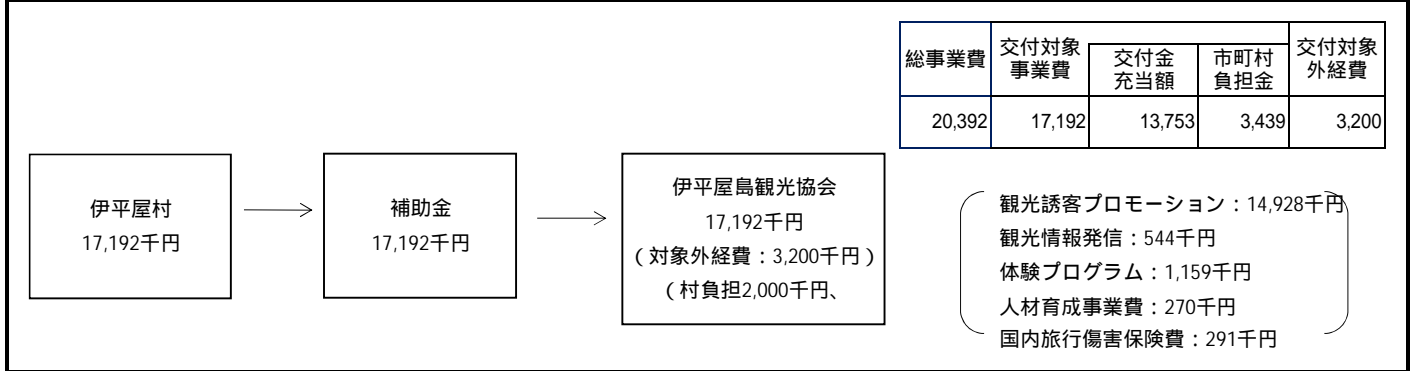
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	目標値(R2年度)	目標値(年度)
		目標	()	(800人以上)	(1,210人以上)	(5,158人以上)
	実績		1,116人	4,431人		
進捗状況説明	・民家利用者数1,210人以上については、実績値も4,431人となり、目標以上の利用があった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(民家利用者数1,210人以上) 県外誘致活動のPR実施により、県内外から27校、人数にして4,313人の修学旅行の要望があった。これは、昨年に比して、17校、3,372人の増加となっている。また、並行して新規民家の参入活動を行い受入体制を強化したため、民泊利用者数4,431人(うち修学旅行生4,313人)を達成した。	(民家利用者数1,210人以上) 引き続き、観光誘客プロモーションの強化を図り、他県修学旅行フェアのみならず、観光エキスポやその他イベントにおいてPR活動を行う。また、そのニーズの高まりにより発生した修学旅行生の増加分を取りこぼさないよう、安定的な民泊受入に向けた新規民家の開拓や質の向上を図る必要がある。

今後の取り組み方針

(民家利用者数1,210人以上)
本村の認知度が高まるよう、引き続き県外誘致活動を積極的に推進する。また、新規民家の参入を促進するとともに、悪天候による体験プログラムの変更に对应できるように、新たな体験プログラムのオプションを造成する等、ツアーの自動化にむけて、受入側の質の向上によるリピーターの確保を推進する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支出先は「伊平屋島観光協会」で、観光に資する団体であるため、事業内容と一致し適正である。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模は事業完了後検査を実施、事業内容に資する規模と判断したため妥当と考える。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	受益者との負担関係は補助金以外にも、予算を充当しており妥当と考える。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費目・使途については事業目的達成の観点から必要性等について書類の検査を行い、適正と判断した。

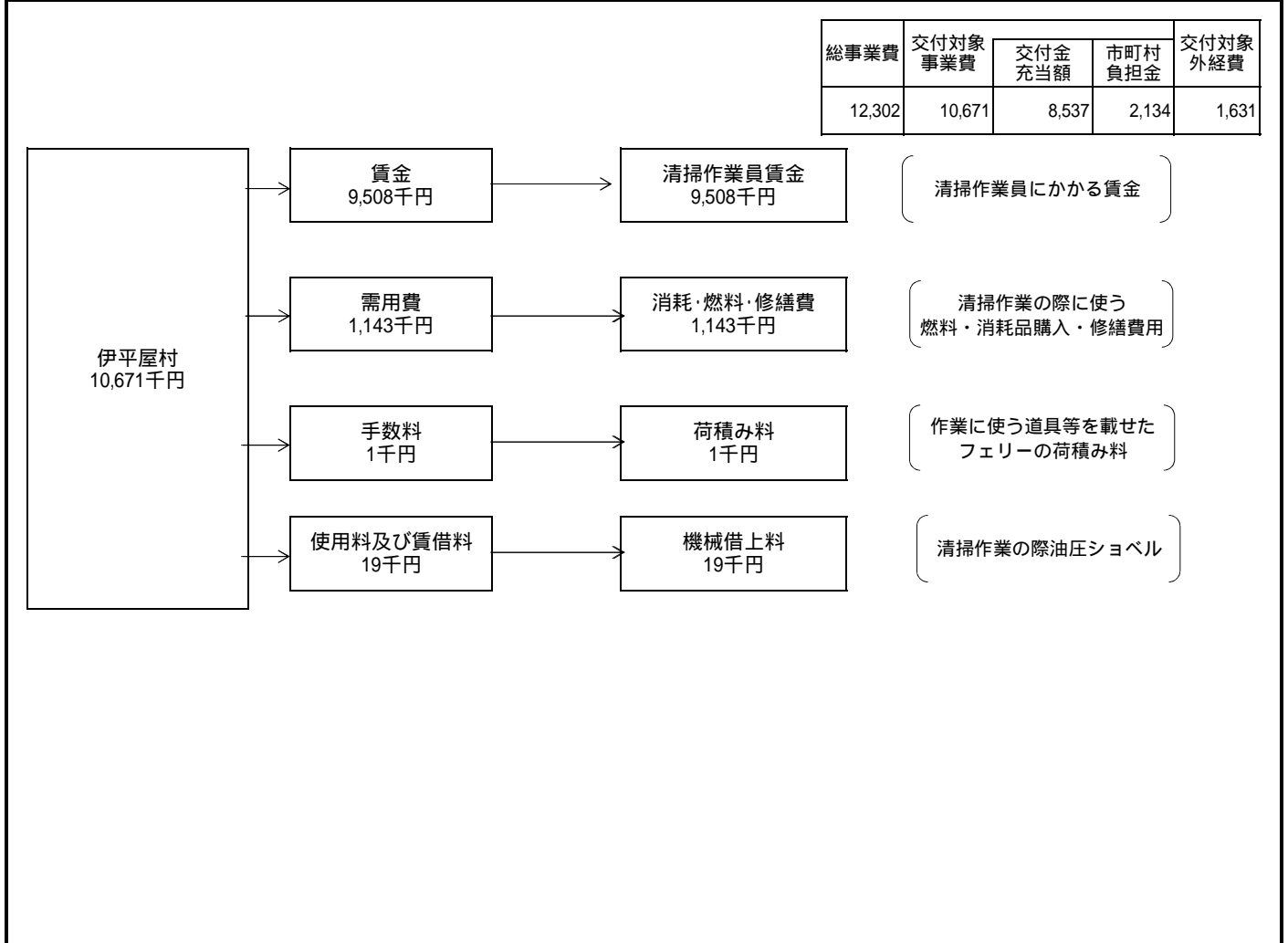
市町村名		伊平屋村										
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	1-	観光地イメージアップ推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ						
担当部課名	建設課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備						
事業内容	魅力的な観光地づくりの推進を目的とし、海浜、道路、公園など利用する公共施設等の美化、清掃や花木の植栽などを実施する。											
効果発現年度	当年度		後年度(年度)									
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		
		(a)当初予算額	18,639		21,885		18,751		22,756		12,888	
	(b)予算現額	18,602		21,885		18,446		16,807		10,898		
	(c)増減額(b-a)	37		0		305		5,949		1,990		
	(d)繰越額	0		0		0		0		0		
	A.計(b+d)	18,602		21,885		18,446		16,807		10,898		
	B.執行済額	18,602		20,774		18,213		14,956		10,671		
	うち交付金充当額	14,881		16,619		14,570		11,964		8,537		
	次年度繰越額	0				0		0				
	執行率(%) (B/A)	100.0%		94.9%		98.7%		89.0%		97.9%		
予算の状況の説明	目標値人員以上の人材を確保できたので効率よく作業を行えた。だが、屋外での作業なので猛暑が続く夏期は継続しての勤務は困難であるため勤務日数が減ったことで1990千円の予算減となった。											
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況									
			H28年度		H29年度		H30年度		R1年度			
	効率よく作業を行うためのチーム編成		目標	(16名)		(16名)		(16名)		(16名)		
			実績	23名		23名		21名		19名		
草刈機等のメンテナンス強化		目標	()		()		(作業後のメンテナンス実施)		(作業後のメンテナンス実施)			
		実績					作業後のメンテナンス実施済		作業後のメンテナンス実施済			
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・19名の作業員を確保できたことで目標値を達成できた。 ・草刈機等のメンテナンス強化を取り入れたことで突発的な故障のリスク軽減に努めることができた。 											
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度		H30年度		R1年度		目標値(R2年度)		
	観光地周辺の景観形成及び道路環境について、観光地としてふさわしい景観及び道路環境であると感じたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方についてアンケート調査により検証する。		目標	()		()		(80%)		(80%)		
			実績					75%		80%		
	【参考指標】 観光アクセス道路の美化清掃:29.5km 観光関連施設の美化作業:18カ所		目標	()		(29.5km 18カ所)		(29.5km 18カ所)		(29.5km 18カ所)		
		実績			51.6km 18カ所		51.6km 18カ所		51.6km 18カ所			
進捗状況説明	県道田名野甫線、村道アグチャー線、村道クマヤ線、村道アツチャビ線、村道アサ線、村道田名島尻西線、村道野甫線、村道屋蔵線、我喜屋ダム線、村道灯台線の11カ所、観光地に関しては前泊後背地、念頭平松、米崎海浜公園、野甫展望台、伊平屋灯台、上ノ川公園、林道の7カ所 計18カ所の美化作業を行った。 アンケート調査においては、目標値を達成できた。											

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査においては、目標値を達成できた。 観光客等の多くの方から当事業は必要との声を頂いている為、次年度目標達成に向け、継続的にかつ効率よく作業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 効率よく作業が行えるよう、年間を通した作業計画をたてると共に、天候不良等があった場合の計画変更も踏まえ、更に作業の効率化を図る。

今後の取り組み方針

・天候不良等があった場合の計画変更も踏まえ、更に作業の効率化を図る。
 ・アンケート実施した中で観光客等の多くの方から観光地として海浜清掃を取り入れてほしいとの要望があったので事業展開の規模拡大を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



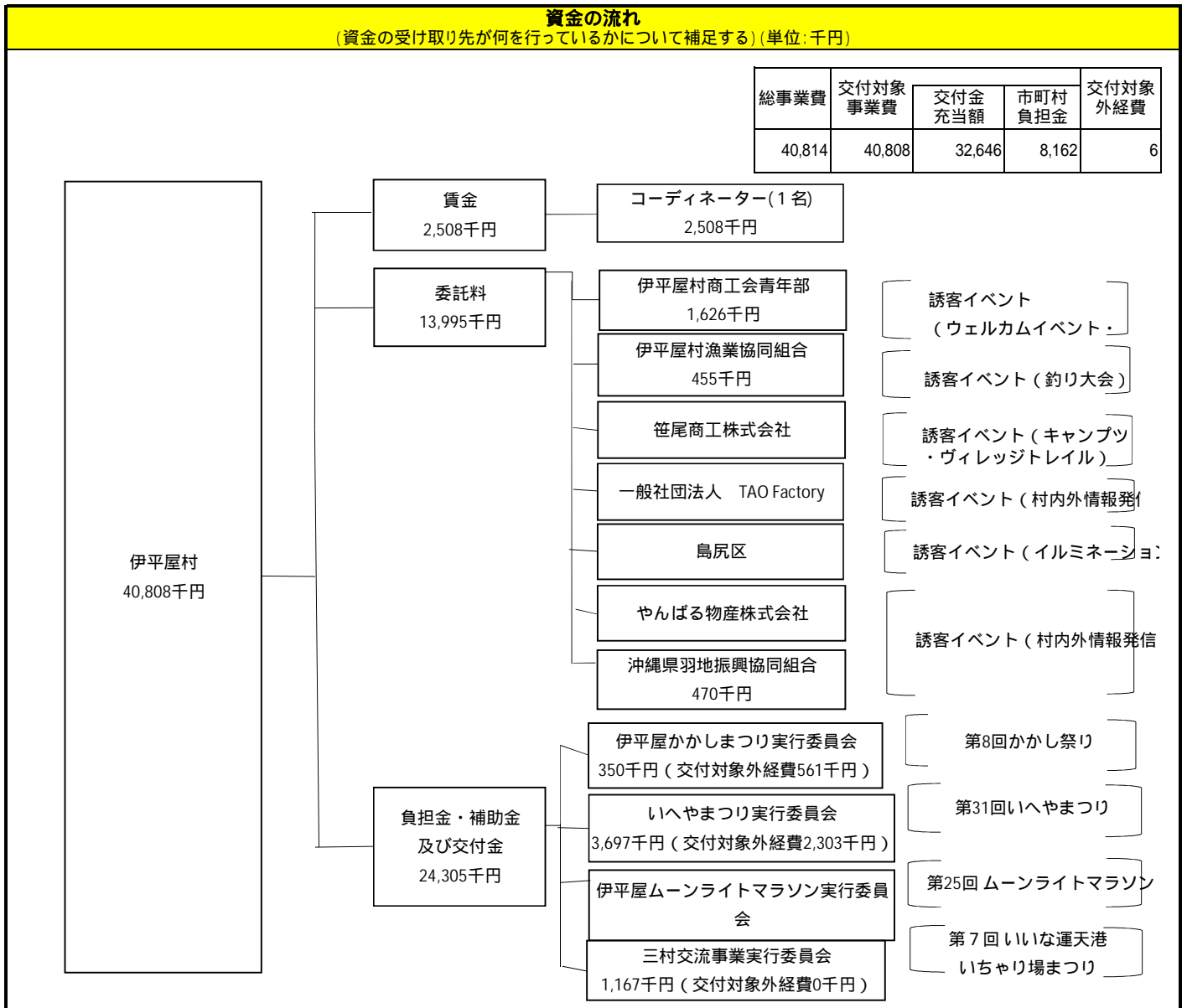
資金の流 れ、費 目、 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支出先については、事業に必要な経費を支出しているため妥当である。 予算規模については、事業内容に見合うものと考え、費目、使途については目的に即し、必要なものであったと判断した。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村
------	------

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1 - 誘客イベント推進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 3 - (12) - ア				
担当部課名	観光交通課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興 - 1 - (1)		
事業内容	村のメインイベントである「いへやまつり」「伊平屋ムーンライトマラソン」や村の自然資源等を活用したイベント並びに、島外において「伊平屋村」をPRするイベントを開催することにより、入域観光客数の増加を図る。						
効果発現年度	当年度	後年度(年度)					
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()		
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	29,694	31,702	35,222	44,235	41,477
	(b)予算現額	31,973	31,717	35,222	44,235	40,957	
	(c)増減額(b-a)	2,279	15	0	0	520	
	(d)繰越額	-	0	0	0	0	
	A.計(b+d)	31,973	31,717	35,222	44,235	40,957	
	B.執行済額	31,973	31,717	33,135	43,766	40,808	
	うち交付金充当額	25,578	25,373	26,507	35,012	32,646	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	94.1%	98.9%	99.6%	
予算の状況の説明	イベント開催支援において想定より多くの収入(寄付金)があったため、520千円の予算減額を行った。また、村の実績検査に於いて、イベント開催委託及びイベント開催支援の実績額に対し、不適と判断したものは、交付金を充当していないため、149千円は交付対象外経費および不用額によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	イベント開催委託 8件	目標	(10件)	(9件)	(8件)	(8件)	
		実績	9件	9件	8件	8件	
	イベント開催支援 4件	目標	(3件)	(4件)	(4件)	(4件)	
		実績	4件	4件	4件	4件	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> イベント開催委託については、8件を目標とし目標通り達成した。 イベント開催支援については、伊平屋村のメインイベントである「いへやまつり・伊平屋ムーンライトマラソン」や、自然資源を活用したイベント並びに島外において「伊平屋村」をPRするためのイベントを開催し、目標通り達成した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
		目標	()	(22,861人以上)	(23,117人以上)	()	()
	実績		21,885人	25,411人			
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 村内入域観光客数について、前年度より増加した。対象イベントを全て実施出来たことや、ムーンライトマラソンが第25回の記念大会であったことなど、イベント開催の効果が見られた。 					

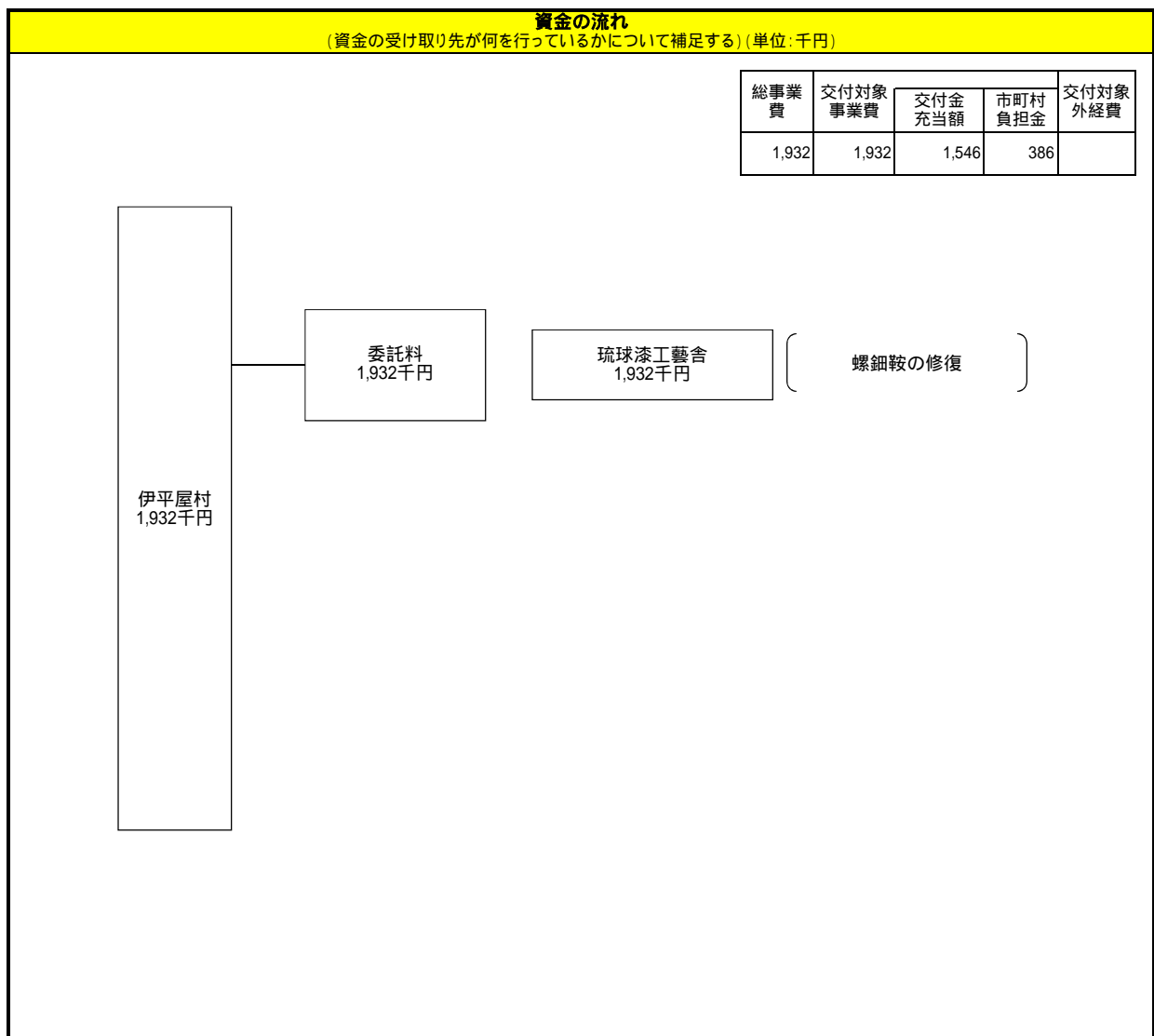
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(入域観光客数) ・目標を達成したものの、開催した誘客イベントのみでの増加ではなく、その他事業の実施に伴う影響もあったと予測できる。イベント実施による観光誘客の効果がわかるような指標を検討するなど取り組みを行う必要がある。	(入域観光客数) ・不測の事態に対応できるよう、イベント開催のガイドラインを作成するなど、開催日程の再検討や代替案の企画を検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
(入域観光客数) ・観光客の増加に向けた早めのイベント情報等の情報発信や、ガイドラインの作成など、不測の事態に備えた対応案及び代替案を検討し、運営体制の強化を行っていく。また、既存のイベントに加え、新たな観光誘客メニューの開発に取り組む。		



資金の流れ、費目、用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業については、本村の地域性を十分考慮し積極的な事業を行っている村内団体、また村内外の業者とも情報交換を積極的に行え村内情報のPRについて高い効果を発揮できる団体を選定したため妥当である。補助金については、村の発展に寄与する団体で構成される組織を選定したため妥当である。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業完了後検査を実施、事業内容に資する規模と判断したため妥当と考える。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係は交付要綱に基づき精査、妥当と判断する。
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・用途については、精算段階で検査を実施、目的に即し必要なものであったと判断したため、限定していると判断した。

市町村名		伊平屋村							
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】									
事業番号・事業名	1- 伊平屋村「琉球の光」普及啓発事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ				
	担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成30年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備			
				-1-(1)					
事業内容	文化資源及び観光資源としての価値を高めるために村文化財の修復を行い、併せて案内解説板等の設置を行うことで観光客の利便性向上を図る。								
効果発現年度	当年度		後年度(R3年度)						
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他()			
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度		R1年度		R2年度		R3年度	
		(a)当初予算額	2,970	3,091					
	(b)予算現額	2,970	1,933						
	(c)増減額(b-a)	0	1,158	0	0	0	0	0	
	(d)繰越額	-							
	A.計(b+d)	2,970	1,933	0	0	0	0		
	B.執行済額	1,687	1,933						
	うち交付金充当額	1,349	1,546						
	次年度繰越額								
	執行率(%) (B/A)	56.8%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!		
予算の状況の説明	螺鈿鞍の修復作業について、部材強度の発現を確保する養生期間に不測の日数を要し、作業工程の計画変更が必要となった。これにより年度内で螺鈿鞍の修復が完了できず、ワークショップ等の開催ができなくなったため、1,158千円の予算減額となった。								
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況						
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
	螺鈿鞍の修復作業実施	目標	(実施)	(実施)	()	()			
		実績	実施	実施					
	漆工芸ワークショップの実施	目標	(実施)	()	()	()			
		実績		未実施					
	ジオガイドブック作成実施	目標	(実施)	()	()	()			
実績			実施済み						
達成状況説明	螺鈿鞍修復の修復作業は予定通り執り行ったが、一部工程を次年度にて行うこととなったため、修復後の螺鈿鞍を活用した漆工芸ワークショップが開催できず目標達成することができなかった。また、ジオガイドブック作成については、原稿のとりまとめを行い資料館での公開資料として作成を行い目標を達成することができた。								
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)		
	螺鈿鞍修復の完了(100%)	目標	()	(30%)	(100%)	()	()		
		実績		30%	80%				
	漆工芸ワークショップの開催	目標	()	()	(開催)	()	()		
		実績			未実施				
	ジオガイドブック作成完了	目標	()	()	(作成完了)	()	()		
		実績			作成完了				
進捗状況説明	螺鈿鞍修復は部材強度の発現を確保する養生期間を長くとる必要があったため、15工程のうち12工程までの実施となり、目標を達成できなかった。また、漆工芸ワークショップは修復作業が完了できなかったため未実施となった。ジオガイドブックについては執筆者と協議し、原稿のとりまとめを行い本村資料館での公開資料として作成を完了し目標を達成した。								

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	螺鈿鞍の修復は当初の部材損傷が激しいため、作業に要する期間の変動があり、対応方針について都度検討を行う必要があったため、スケジュール管理に苦慮した。	文化財修復作業にかかる時間は修理する文化財の個別の傷み具合により変動するため、修復師と連携を密に行い、現状の把握、修復期間の見込み、今後の対応方針による作業量の調整等を行う事で、作業の効率化を図る。
今後の取り組み方針		
螺鈿鞍修復について修復師と連携を密に行い、計画に沿った修復対応を行うと共に、最終的な展示状態についても協議を重ね、長期間の展示に耐えうる文化財となるよう取り組む。		



資金の流 れ、費 目、 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	鞍の修復は漆の修復師は県内で1人のみであるため選定方法は妥当である。 虫害の程度が見込みより激しく、工程を変更し減額となった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費用・使途については精査段階で検査を実施しており、目的に則し、必要なものであったと判断した。

市町村名		伊平屋村										
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	2 - 病害虫防除事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章 - 3 - (7) - ウ							
	担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産物の安全・安心の確立						
- 1 - (6)												
事業内容	さとときびの生産性の向上と農家所得の向上を目指し、収穫量低下の原因となっている病害虫(イネヨトウ)の被害を防ぐため防除作業を実施する。											
効果発現年度	当年度		後年度(年度)									
実施方法	直接実施		委託		補助		負担		その他 ()			
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		
		(a)当初予算額	7,860	7,693	7,693	7,693	7,693	7,693	7,877			
		(b)予算現額	7,860	7,693	7,002	7,693	6,335					
		(c)増減額(b-a)	0	0	691	0	1,542					
		(d)繰越額										
	A. 計(b+d)		7,860	7,693	7,002	7,693	6,335					
	B. 執行済額		7,860	7,693	7,002	7,349	6,335					
	うち交付金充当額		6,288	6,154	5,601	5,879	5,068					
	次年度繰越額		0	0	0	0	0					
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	95.5%	100.0%					
予算の状況の説明		当初計画より、夏植えを行っている畑が多く、今期の収穫面積が縮小したことにより1,542千円の予算減となったが、概ね計画通り事業執行でき、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて、適正であったと考える。										
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況									
			H28年度		H29年度		H30年度		R1年度			
	防虫剤(フェロモン剤)散布:160ha		目標	(160ha)	(160ha)	(160ha)	(160ha)	(160ha)				
			実績	160ha	160ha	168.3ha	141ha					
		目標	()	()	()	()						
		実績										
達成状況説明	伊平屋村さとときび生産の目標値の160haに対し、今期の収穫面積が減少したため、フェロモンチューブ設置面積(目標)も同様に実績値となった。活動目標は概ね88%に止まったものの、村全体での防除作業を効果的に実施できた。											
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)		H29年度		H30年度		R1年度		目標値(年度)	
	病害虫防除等によるさとときび生産量の安定化		目標	()	(4,900t)	(4,900t)	(5,300t)	(4,900t)				
			実績		5,367t	6,136t	4,237t					
			目標	()	()	()	()					
		実績										
進捗状況説明	病害虫(イネヨトウ)の発生時期前に、初期防除を行なったため被害を最小限に抑えることができた。成果目標である生産量の目標値は、収穫面積が減少したことにより下回ったものの、成果目標に対し概ね80%達成することができた。											

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<p>・病害虫(イネヨトウ)はイネ科雑草・ほ場周辺縁部等の雑草にも寄生するため、農家による周辺雑草の管理について継続的な指導を実施し、さとうきび圃場の被害を防ぐ必要がある。</p> <p>・初期防除により病害虫(イネヨトウ)による被害を最小限に抑えることはできたが、種苗の不足による原料搬入量の減少等外的要因により、さとうきびの生産量が減少し目標達成に至らなかった。</p>	<p>・JA及び生産農家・各関係機関と連携し共同防除として取り組み、イネ科等の周辺雑草等の管理も含めた肥培管理及び薬剤使用等の指導・啓蒙を推進し、さとうきび圃場の被害軽減および生産量の安定化を図る。</p> <p>・年度毎の病害虫(イネヨトウ)の被害調査を実施し、翌年度以降の成果目標に発生件数又は抑止件数を追加することで、病害虫(イネヨトウ)の被害を防ぐことを目的とした当事業の効果検証を明確化し、共同防除を行う生産農家の意欲向上を図る。</p>

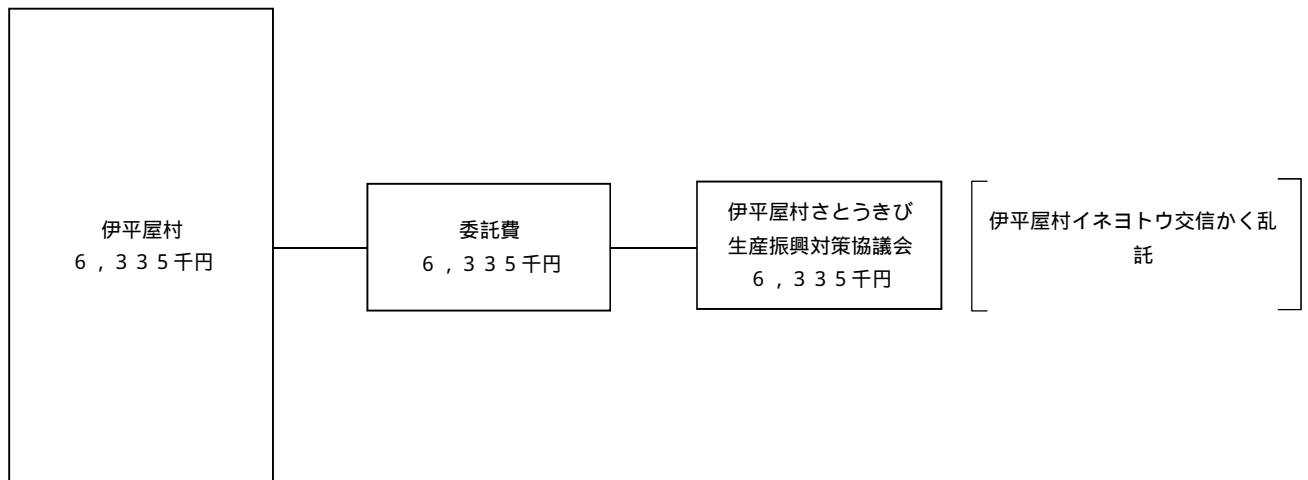
今後の取り組み方針

・JA及び生産農家・各関係機関と連携し、連絡会や総会等を通して肥培管理および薬剤使用等の指導を定期的に行う事で、病害虫(イネヨトウ)の慢性的な発生の未然防止に取り組むと共に、関係機関と連携した共同防除を継続し、生産量の安定化に向け取り組む。

・沖縄県病害虫防除技術センター等の病害虫予察情報等を活用し、発生動向を考慮した早期防除に取り組むと共に、病害虫(イネヨトウ)の被害調査を実施し、当事業の効果検証および今後の被害軽減に向けた目標設定を明確化することで、より効果ある共同防除に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,335	6,335	5,068	1,267	



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支出先の選定方法については、村及びJA、生産農家等で構成されている伊平屋村さとうきび生産振興対策協議会を選定した。 予算規模については、事業内容に見合うものとする。 受益者負担については、防除剤設置作業を生産農家等の協力により実施しているため、負担を無しとしている。 費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		伊平屋村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2 - 伊平屋村優良繁殖牛導入事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア		
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成26年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備		
					-1-(6)		
事業内容	農家の経営安定化を図るため、畜産農家が行う繁殖牛導入費用の一部(上限を40万として、購入費用の半額を補助)を助成する。						
効果発現年度	当年度	後年度(年度)					
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他()		
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a)当初予算額	6,000	5,600	5,600	5,600	5,600
		(b)予算現額	6,000	5,590	5,600	5,600	3,200
		(c)増減額(b-a)	0	10	0	0	2,400
		(d)繰越額	-	0	0	0	0
	A.計(b+d)		6,000	5,590	5,600	5,600	3,200
	B.執行済額		5,800	5,590	5,535	5,544	3,132
	うち交付金充当額		4,640	4,472	4,428	4,435	2,505
	次年度繰越額			0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		96.7%	100.0%	98.8%	99.0%	97.9%
予算の状況の説明		今年度は母牛候補となる子牛が多く自家保留する農家が一時的に増えたため、セリでの購入が減となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	優良繁殖雌牛導入頭数14頭		目標 (14頭)	(14頭)	(14頭)	(14頭)	
			実績 14頭	14頭	14頭	8頭	
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	自家保留する農家が一時的に増えたため、優良繁殖雌牛導入数8頭と目標を下回る結果となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	[R1成果目標] 導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合 106%以上		目標 ()	(14頭 全体計画の 80.6%完了)	(106%以上)	(106%以上)	()
			実績	(14頭 全体計画の 80.6%完了)	108%	108%	
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	本事業により導入した繁殖用雌牛から産まれた子牛のセリ値が高値で推移した結果、目標を達成する事が出来た。						

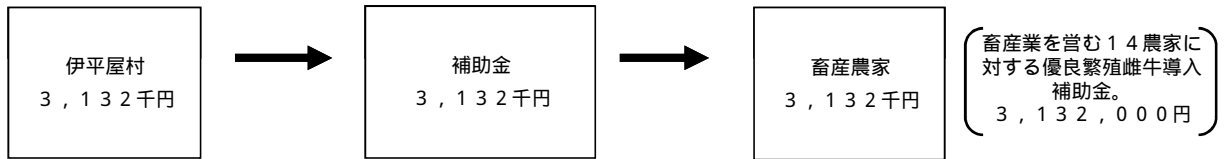
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<p>現在、県内において新型コロナウイルスの影響により子牛のセリ値が下がっている。 子牛のセリ値については市場の状況により乱高下することもあることから、小・中規模の経営体が多数を占める本村においては、安定的な畜産経営が行えるよう中・長期的な経営計画策定や事業による支援等を引き続き行う必要がある。</p>	<p>県内外において、繁殖用雌牛のセリ値は価格を下けている。繁殖用雌牛の導入においては、例年に比べると費用を抑えて購入できる事が考えられるため、早めに計画をたて、計画的に購入をしていただくとともに、費用負担を軽減する。 また、次年度の改善として、より母牛点数の高い雌牛を導入できるよう、1件当たりの補助上限額を増額し品質向上も図る必要がある。 畜産農家への支援としては、繁殖技術の向上等について講習会の開催や他地区との技術交流支援を行う。</p>

今後の取り組み方針

一件当たりの補助上限額を増額、母牛点数の高い雌牛を導入し、産まれた仔牛(雌)を新たな繁殖用雌牛として育成することで、品質向上を図る。引き続き事業による導入支援を検討する。
また、講習会の開催や他地区との技術交流支援、畜産共進会等への積極的な参加を推進することで繁殖技術の更なる向上と村内の繁殖用雌牛の改良・更新を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
3,132	3,132	2,505	627	0

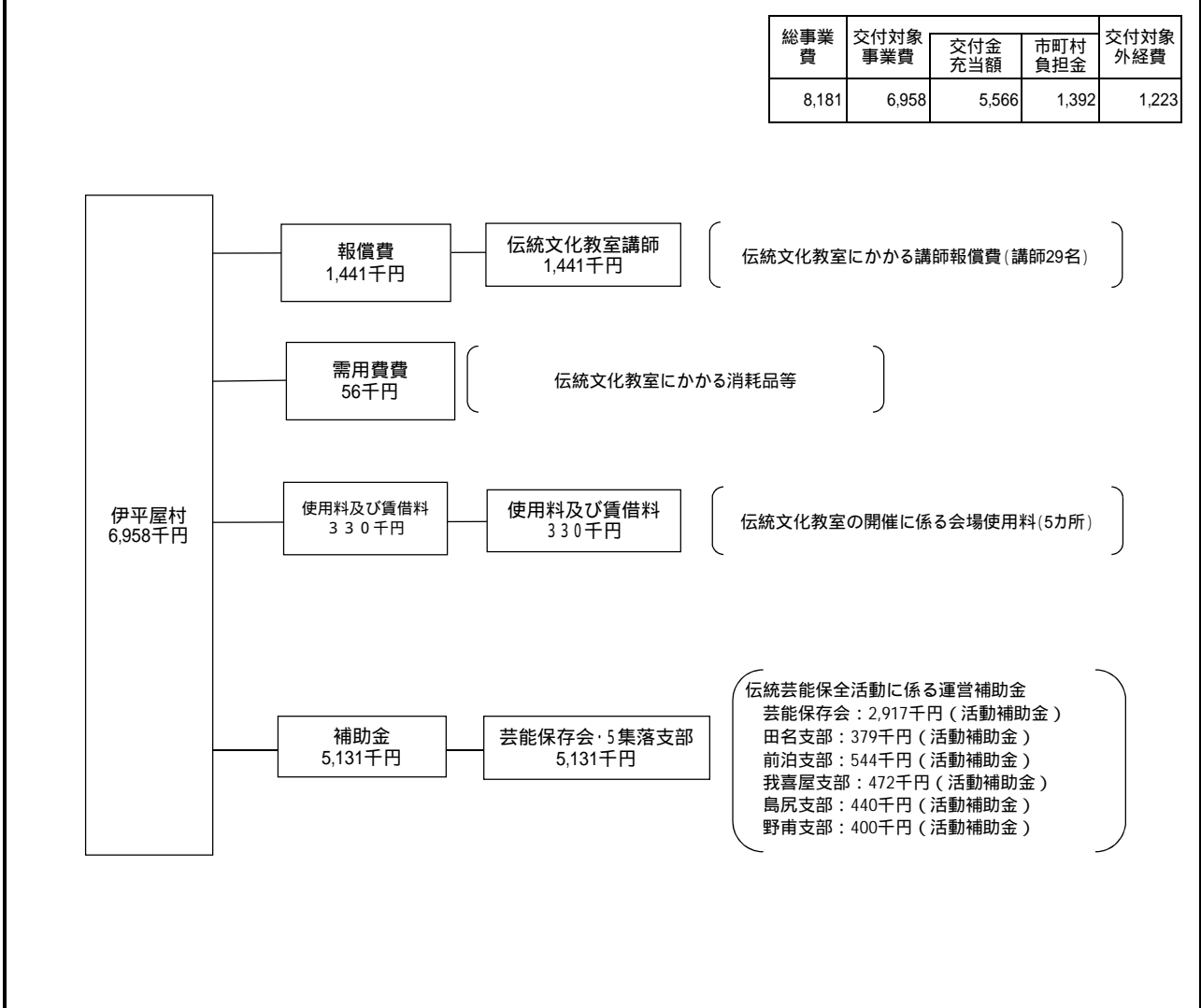


資金の流点、評価目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支出先は、村内の畜産農家全員を対象しており妥当である。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	自家保留する農家が増えたことにより減額となった。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	受益者への補助は、事業に係る費用の半額且つ上限額を定めており妥当である。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費用・使途については、事業目的である繁殖牛導入に係る費用の補助のみとなり適正である。

市町村名		伊平屋村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-	伝統文化継承支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(1)-ア	
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域を大切に、誇りに思う健全な青少年の育成	
事業内容	島への誇りと愛着を醸成し、次世代を担う健全な人材を育成するため、伝統文化、伝統芸能について、老人会等との連携による課外講座の実施や保存会等の活動を支援する。						
効果発現年度	当年度	後年度(年度)					
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()		
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a)当初予算額	4,190	6,022	14,462	7,452	9,148
	(b)予算現額	4,870	4,685	14,983	8,752	7,946	
	(c)増減額(b-a)	680	1,337	521	1,300	1,202	
	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A.計(b+d)	4,870	4,685	14,983	8,752	7,946	
	B.執行済額	4,870	4,684	13,944	7,084	6,958	
	うち交付金充当額	3,896	3,747	11,155	5,667	5,566	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	93.1%	80.9%	87.6%	
予算の状況の説明	島外芸能フェアについて、2日間公演から1日公演への計画変更があった為、村芸能保存団会への補助予算を1,202千円減額した。 不用額998千円については、伝統文化教室開催に係る講師人数の減や消耗品数量の減などによるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	伝統文化教室の開催 14教室 / 11回	目標	(14講座 (11回))	(18講座 (11回))	(14講座 (11回))	(14講座 (11回))	
		実績	17講座 (11回)	18講座 (11回)	19講座 (11回)	14講座 (11回)	
島内芸能保存団体補助:6団体	目標	(8団体)	(8団体)	(8団体)	(6団体)		
	実績	6団体	6団体	6団体	6団体		
達成状況説明	・伝統文化学習講座について、児童生徒の希望・講師の希望も含め、多くの講座の開設と年間計画に基づき、計画的に講座の運営を行うことができた。 ・村芸能保存会において、計画通りの実施が行われ、地域住民・5集落における伝統芸能継承を自発的に地域をあげ、継続的に実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	伝統文化教室の参加者数:100%(144名) (伝統芸能保存会活動及び後継者育成)	目標	()	(100% (100名))	(100% (139名))	(100% (144名))	()
		実績		100% (100名)	105% (146名)	100% (144名)	
	伝統芸能演舞者数 80名 (伝統芸能の継承)	目標	()	()	(25名)	(80名)	()
		実績			71名	80名	
	伝統芸能公演の来場者数 400名 (第3回いへや芸能まつり開催)	目標	()	()	(323名)	(400名)	()
実績				556名	290名		
[R2成果目標] ・伝統文化教室の参加者数:144名 ・伝統芸能演舞者数:80名 (一つの地区あたり16名*5集落) ・来場者数 290名	目標	()	()	()	()	()	
進捗状況説明	・継続的な伝統文化活動の日の実施により、各集落の主体的な取り組みで長年にわたり受け継がれてきた成果が、発表会にも表れ、演舞・掲示ともに充実した作品が見られ、参加者数においても100%を達成した。 ・村芸能保存会において、計画通りの実施が行われ、地域住民・5集落における伝統芸能継承を自発的に地域をあげて実施することができ、目標演舞者数80名を達成した。 ・令和元年度は、スケジュールの都合上、1日のみの公演となったため、来場者数は昨年の約半数となった。						

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化教室について、講師の人材不足が問題となっている。 ・地謡の後継者が不足しているため、三線教室などを利用して幅広く育成していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材リストの見直しを図り、新たな人材発掘に向け、協力要請等を積極的に行う。 ・三線等、伝統芸能分野において活躍している方を招聘し、公演会等を開催し、興味関心を深め、継承の機運向上を図る。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き事業を推進し、民俗芸能保存会を中心に伝統文化の継承していくため、島内外でのイベント出演機会を確保し、さらなる伝統文化の発展と実践研究を図って行くほか、地域との連携を密にし、新たな講師の確保及び地域リーダーの育成も同時に進めて行く。 ・民俗芸能保存会を基軸として、伝統文化継承活動を継続していくとともに、公演会等の開催により興味関心の向上を図りながら地謡・踊り手の育成も継続して行っていく。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れの流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、推進基盤となる芸能保存会とその各支部に限定しており、妥当であったと考える。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、計画変更により予算減額となったが、事業内容に見合った内容で適正であったと考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助金に係る支出は事業執行に必要最低限な経費とし、それ以外は受益者負担であるため妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的に即した経費について支出し適正であったと考える。

市町村名	伊平屋村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3 - 特別支援教育支援員配置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 第3章 - 5 - (3) - ア					
担当部署名	教育委員会	事業実施(予定)年度 平成25年度 - 令和3年度 沖縄振興基本方針該当箇所 確かな学力を身につける教育の推進 - 3 - (1)					
事業内容	個々にあったきめ細かい学習支援を実施するため、特別支援教育支援員を各所へ配置する。						
効果発現年度	当年度 後年度(年度)						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 ('交付金'+市町村負担ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	(a)当初予算額	6,696	24,090	24,652	20,768	23,125	
	(b)予算現額	6,002	24,090	19,769	20,768	23,125	
	(c)増減額(b-a)	694	0	4,883	0	0	
	(d)繰越額	-					
	A.計(b+d)	6,002	24,090	19,769	20,768	23,125	
	B.執行済額	6,002	22,822	19,725	20,120	22,539	
	うち交付金充当額	4,641	18,258	15,779	16,095	18,031	
	次年度繰越額	0					
	執行率(%) (B/A)	100.0%	94.7%	99.8%	96.9%	97.5%	
予算の状況の説明	事業計画通り、概ね執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	小学校特別支援員の配置1名	目標	(1名)	(1名)	(1名)	(1名)	
		実績	0名	1名	1名	1名	
	学習支援員の配置2名	目標	(2名)	(3名)	(2名)	(3名)	
		実績	3名	3名	3名	3名	
達成状況説明	・小学校特別支援員については、1名が配置され、目標を達成した ・学習支援員については、3名が配置され、目標を達成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R1年度	目標値(年度)
	対象となる児童生徒の保護者へのアンケートで、特別支援員の対応に満足したか(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	()	()
		実績		80%	89.5%		
	沖縄県学力到達度調査における、県と本村との平均正答率の差 ・小学校(国語・算数・理科) -3.15ポイント以上 ・中学校(国語・数学・理科・社会・英語) +0.05ポイント以上	目標	()	()	小:-3.15以上 中:-2.7以上	()	()
		実績			小:-8.6% 中:-17%		
進捗状況説明	対象となる児童生徒・保護者のアンケートについては、80パーセント以上の回答を頂き、満足したと答えた声も多くなりました。また、沖縄県学力到達度調査における平均正答率については、小学校については一部県の平均正答率を上回ったものの目標達成には至らなかった。						

	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 学校での学習支援員については、学習到達度の低い児童生徒への支援・指導方法等保護者理解が更に得られるような取り組みを行っていく必要があると思われる。 事業の推進については、安定的な人材確保と保・幼・小・中の連動した系統的な支援方策立案に留意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様化する特別支援、学習支援の在り方について保護者ニーズを把握するとともに、学校現場・保護者との密な連携や外部専門家との連携により、保護者理解と協力をさらに得られる取り組みを推進する。 保護者や地域、学校との密な連携を行う事で、安定的な人材確保に努めると共に、保護者、学校、外部専門家との連携により、生徒の実態把握に努め、個々に応じた系統的な支援方策を立案し、早期の支援推進を図る。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 学習支援員に関しては、保護者理解と協力をさらに得られるよう、保護者・学校・外部専門家との連携強化により、保護者ニーズを踏まえた支援方法を検討するとともに、これまでの支援で得たノウハウや当該児童の心身の発達段階に即したサポート体制を構築する。 昨年までの実施結果を踏まえ、支援が必要と思われる児童生徒の実態把握と個々に応じた支援方策の検討及び、発達段階に応じた系統的な支援カリキュラムの構築を継続的に行っていくとともに、地域・学校と情報共有を密にし安定的な人材確保に努める。 		

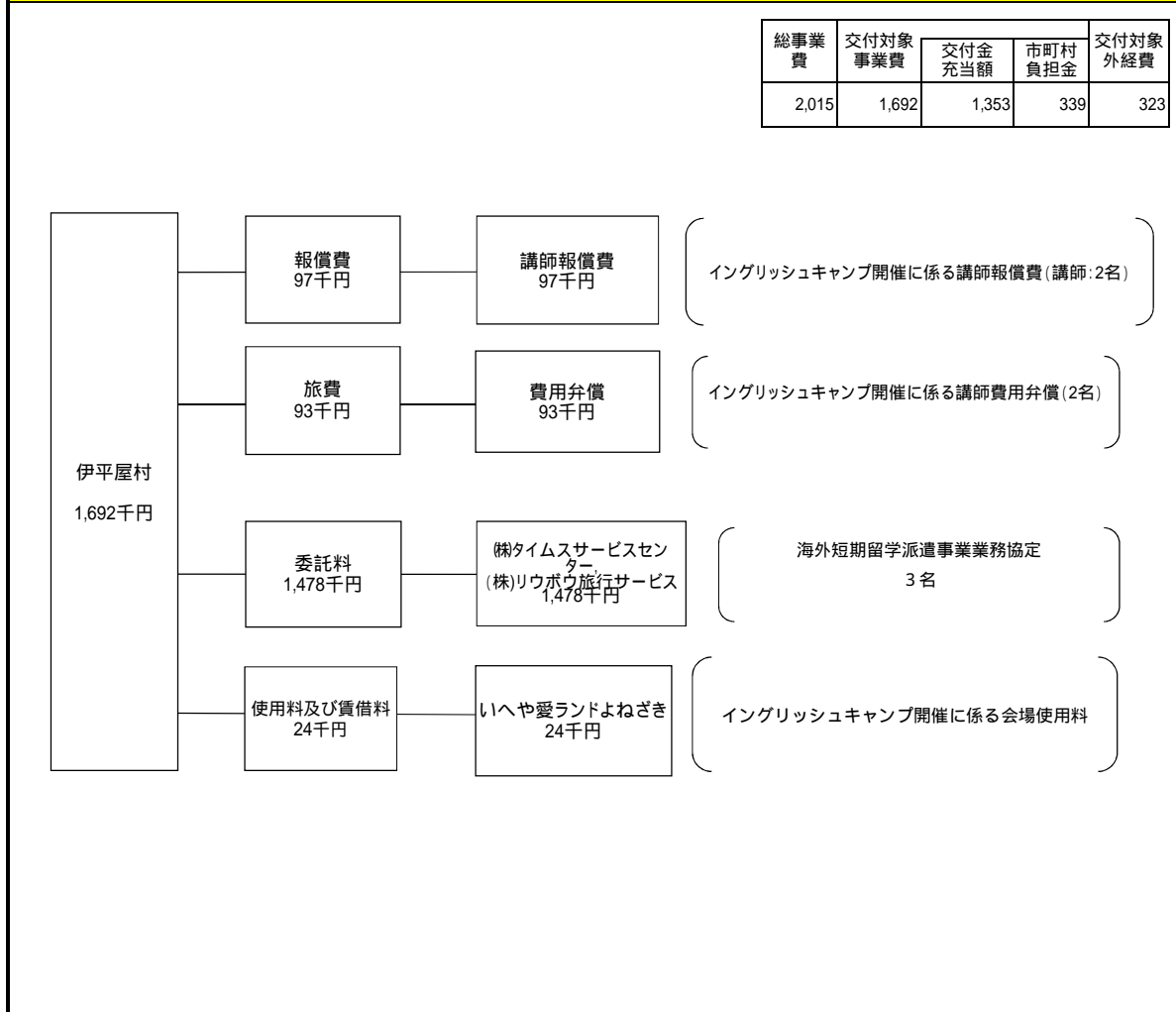
資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	22,539	22,539	18,031	4,508	
伊平屋村 22,539千円	賃金 1,620千円	委託費 20,919千円	支援員賃金 1,620千円	(社)教育振興会 18,489千円	(合)Ricas 代表 越中裕太 2,430千円
			()	()	()
			学習支援員の配置に係る臨時職員賃金:1名	地域学力向上支援事業実施業務委託(派遣):3名	学習フォローアップ実施業務委託

資金の流	評価	点検項目	評価に関する説明
点検・費目・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○有資格者の支援員を公募により選定したことと、委託費にかかる支出先については、業務実績、実務能力を精査し選定したことから妥当であったと考える。 ○費用や用途についても事業目的に即した人件費及び委託費の支出であることから、妥当であると考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		伊平屋村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3 - 英語学習支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章 - 5 - (4) - ア		
担当部署名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 - 3 - (1)	
事業内容	グローバルな時代に適応できる国際性豊かな人材を育成するため、小中学生を対象としたイングリッシュキャンプの開催による動機付けや、本村の中学生を海外に派遣し、異文化を体験する機会を与える。						
効果発現年度	当年度		後年度(年度)				
実施方法	直接実施		委託		補助 負担 その他 ()		
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a)当初予算額	2,402	1,890	1,890	1,930	1,930
		(b)予算現額	1,974	1,890	1,890	1,930	1,786
		(c)増減額(b-a)	428	0	0	0	144
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	1,974	1,890	1,890	1,930	1,786
		B.執行済額	1,974	1,456	1,834	1,832	1,692
		うち交付金充当額	1,160	1,165	1,467	1,465	1,353
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	100.0%	77.0%	97.0%	94.9%	94.7%
予算の状況の説明	海外短期留学について、生徒1名が体調不良により中途帰国となったため、144千円の予算減額となったが、概ね事業計画通りに執行することができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	海外短期留学(アメリカ):3名	目標	(3名)	(3名)	(3名)	(3名)	
		実績	3名	3名	3名	3名	
	イングリッシュキャンプ:30名	目標	(40名)	(20名)	(20名)	(30名)	
実績		16名	12名	32名	23名		
達成状況説明	海外短期留学について、7月から8月にかけて3名の村内中学生を米国に派遣したほか、7月下旬に伊平屋イングリッシュキャンプと称した英語学習スクールを開催し、小中学生23名を対象に3日間の日程で実施した。活動目標に設定した海外短期留学の目標達成、イングリッシュキャンプは中学生の参加が無かったため目標人数を下回る状況となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
	参加者及び保護者へのアンケートにて、海外での生活・体験や外国人講師との交流を通して、児童生徒の国際的な視野がより広まったと感じたか検証する(80%以上)	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	()	()
		実績		80%	80%		
		目標	()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	参加者及び保護者へのアンケートで、海外短期留学での生活体験やイングリッシュキャンプでの外国人講師との交流を通して、生徒・保護者の満足度は高かった。また、短期留学を終えても、さらなる目標を立て、一つ上の英検へ挑戦するなど生徒の意欲も高まった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 海外短期留学では語学力もさることながら、海外での生活に順応出来るような精神面の強化や生活指導等を行う必要がある。 児童生徒の英語学習における習熟度の発表の場が、島内だけでは限定的であることから、より効果的に児童生徒の関心度や向上心を高めるような取り組み方策が必要とされる。 イングリッシュキャンプの実施時期が夏休みであることから、児童生徒への早めの周知徹底と保護者への説明を工夫して行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者も含め丁寧なオリエンテーションを行うと共に、生徒への指導のあり方として学校・家庭・地域・行政が一体となった協議会の中で、学力向上や生活支援、情操教育を徹底し、生徒の精神面の強化を図る。 英語習熟度を高めるための英語検定試験の受験について継続的な推奨を学校と連携して行い、併せて島外での英語スピーチコンテスト等の参加を推奨することで児童生徒の関心度向上を図る。 イングリッシュキャンプについては、プログラムの検討を行うほか、英語講師の獲得に向け関係機関との連携強化を行うとともに、児童生徒や保護者への呼びかけを学校現場と連携し参加者確保に努める。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 協議会にて、生徒への生活支援や情操教育を徹底し、海外での生活に順応できるような精神面の強化に取り組む。 今後も引き続き事業を推進し、学習規律や英語教育のさらなる充実をはかり、英検各級の増加、また3級取得以上の者の増加を目指す。また、児童生徒の英語学習への関心度を向上させるため、英語スピーチコンテストへの参加推奨や、英会話教室への積極的な参加を促す。 英語キャンプの募集について、学校と連携し児童生徒・保護者への周知を図る。また、短期留学経験者へ夏休み中の島内英語キャンプへのボランティアを依頼し、継続的な連携を図る。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れ、費目	○	支出先の選定方法は妥当か。	○いへや愛ランドよねざきでのイングリッシュキャンプの実施は妥当であったと考える。また、海外短期留学の委託先は豊富な業務実績と留学前後の事前、事後指導を含めた委託内容から妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算については当初のイングリッシュキャンプ参加人数を上回ったが、計画通りに実施できた。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○短期海外留学においては事業費の10%を受益者が負担したことから妥当であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途は事業目的にのみ限定したことから妥当であったと考える。

市町村名		伊平屋村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3 - 伊平屋島児童・生徒島外派遣等支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 5 - (2) - ア			
	担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成26年度～令和3年度	教育機会の拡充		
事業内容	村外で実施されるスポーツ大会や文化交流等各種教育活動に積極的に参加し、離島の小規模校では経験できない他地域での各種体験を通し、児童生徒の健全な育成を推進するため、派遣費用を助成する。						
	効果発現年度	当年度	後年度(年度)				
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()		
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	2,564	1,880	1,906	2,135	2,135
	(b) 予算現額	2,799	1,880	1,707	1,635	858	
	(c) 増減額(b-a)	235	0	199	500	1,277	
	(d) 繰越額	-					
	A. 計(b+d)	2,799	1,880	1,707	1,635	858	
	B. 執行済額	2,799	1,534	314	617	749	
	うち交付金充当額	2,028	1,227	251	493	599	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	100.0%	81.6%	18.4%	37.7%	87.3%	
予算の状況の説明	当初計画の枠内での運用であるが、大会により児童生徒の人数の増減があること、また想定していた大会が天候により出場できなかった件などもあり、減額となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	島外開催イベント及びスポーツ大会、文化交流等への参加(小学生9回・のべ135名)	目標	(5回 110名)	(5回 97名)	(9回 135名)	(9回 135名)	
		実績	11回 150名	5回 97名	7回 88回	7回 136名	
	島外開催イベント及びスポーツ大会、文化交流等への参加(中学生6回・のべ324名)	目標	(6回 51回)	(6回 47名)	(6回 324名)	(6回 324名)	
		実績	16回 110名	6回 47名	16回 135名	9回 81名	
達成状況説明	村内児童生徒対象の事業で、島外へのスポーツ大会や交流学习等への派遣を行ったが、大会による参加人数の増減および天候の影響により大会に参加出来なかったこともあり、小中共に目標達成することができなかった。しかしながら島内では体験できない学習機会やスポーツ大会への参加を通してのスキル向上ができ、英語スピーチコンテスト等への派遣も英語力向上にも成績向上にもリンクしており、児童生徒への良い刺激ともなっている。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	派遣された児童・生徒の保護者へのアンケートで、児童・生徒が広い視野を持てたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方について検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	()	()
		実績		80%	80%		
	目標	()	()	()	()	()	
	実績						
進捗状況説明	知・徳・体のバランスのとれた児童生徒の育成を支援するために島外派遣事業を活用できる大会を精選しているが、天候の影響等により昨年度より派遣回数は減少したものの、それでも小中合わせて延15回以上の派遣を行うことができたため、アンケート結果(80%程度)で目標を達成することができた。また船賃・宿泊費の補助することで保護者の負担も軽減されたことから、満足度もあがったというアンケート結果得ることができた。						

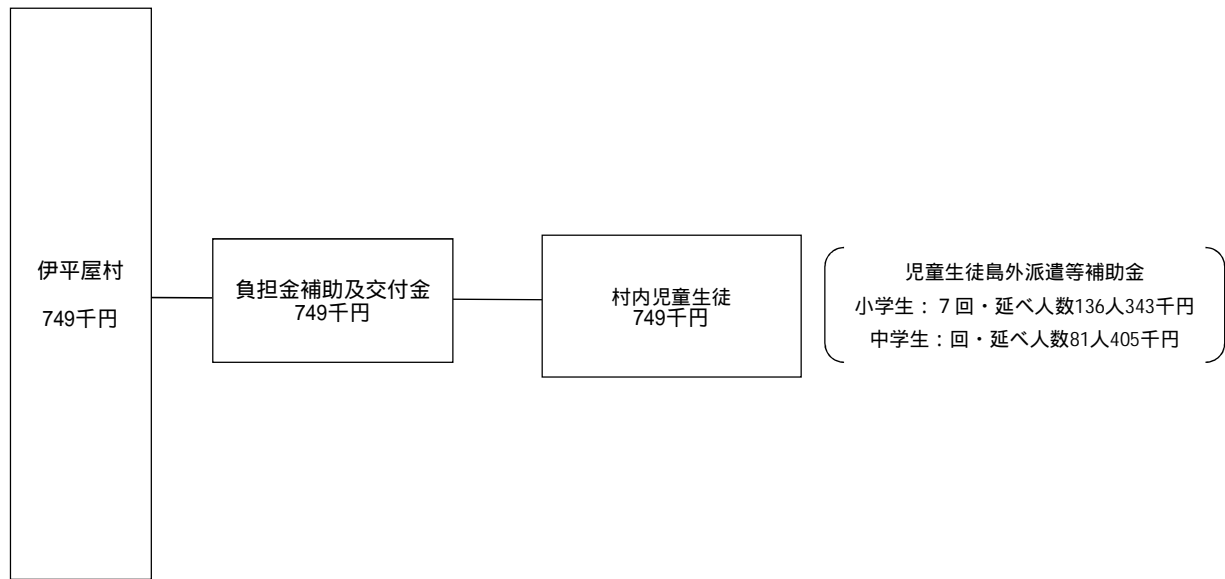
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	本事業を実施することにより、特にスポーツ面で効果は顕著である。しかし、本村の有する多くの地域事業との兼ね合いも含め、申請時に派遣大会を精選する必要がある。	本事業の継続的な事業効果を図るため、文武両道の観点からスポーツ大会偏重ではなく、文化・学習面での交流や発表会等への派遣も積極的に行うよう指導・助言し、また地域事業について関係各所と連携を密にし、理解と協力得ながら推進する。また、スポーツ関連の派遣補助対象大会も引き続き精選していく。派遣された児童・生徒の保護者へのアンケートで、島内ではできない経験をすることができたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方について検証する。

今後の取り組み方針

・平成30年度に引き続き、スポーツ面だけではなく文化面での派遣もあったので、さらにさまざまな面で児童生徒の補助が継続できるよう文化や学習等の交流・派遣を推奨していく。
 ・不用額が生じたが、今後は派遣日程が増やせるよう、学校・地域と連携し工夫して取り組む。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
795	749	599	150	46

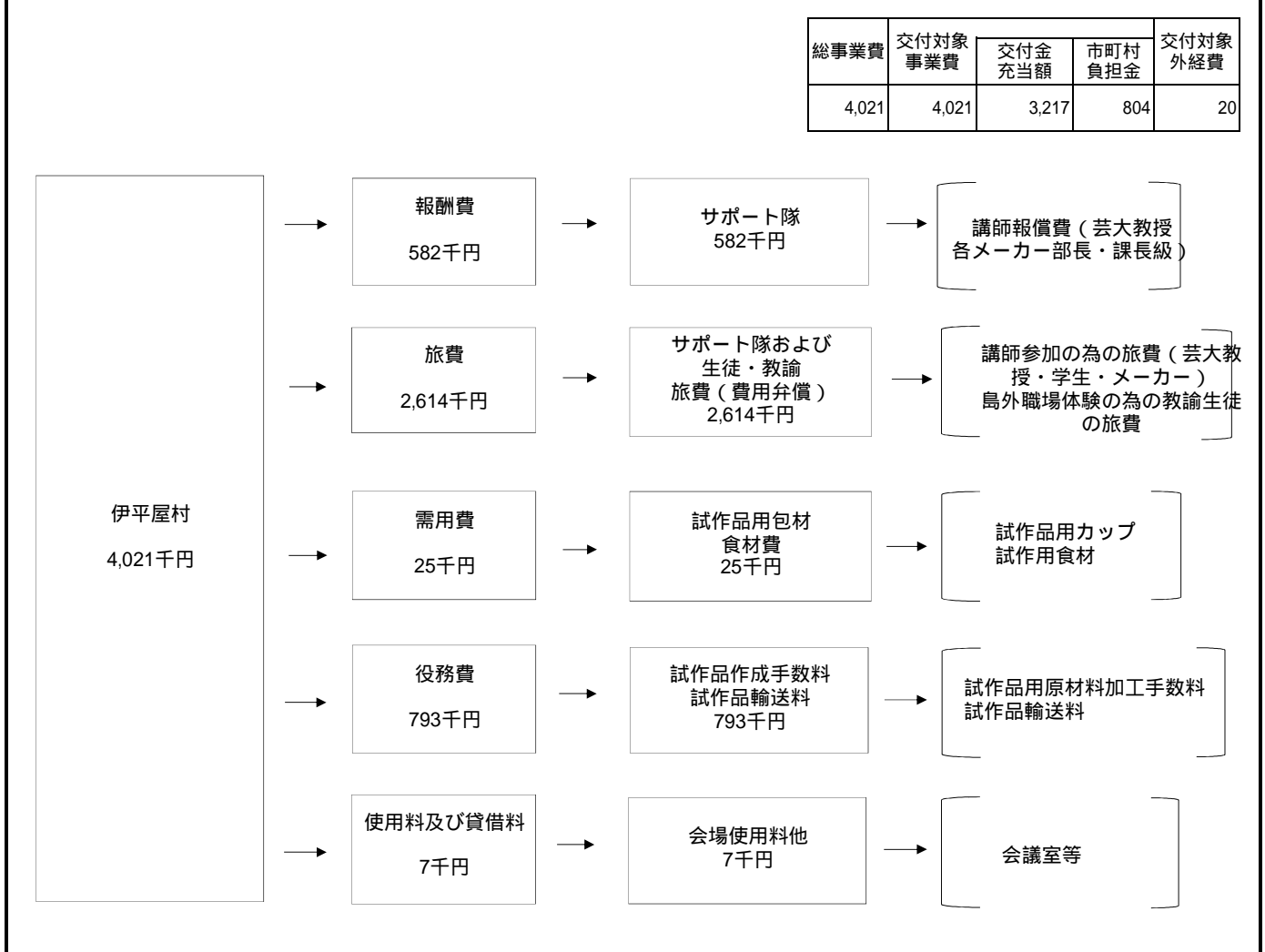


資金の流 れ、 点 検、 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は児童生徒の所属する団体であったことから妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○天候不良による不用額はあったものの予算の規模は適正であったと考えている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○船運賃及び宿泊費以外の経費については受益者が負担していることから妥当であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途は事業目的にのみ限定したことから妥当であったと考える。

市町村名		伊平屋村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3 - 伊平屋島起業家人材育成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(2)-ア		
	担当部課名	観光交通課	事業実施(予定)年度	平成26年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	教育機会の拡充	
事業内容	将来、島で起業する力を身に付けさせるため、児童・生徒にキャリア教育を実施する。						
効果発現年度	当年度		後年度(年度)				
実施方法	直接実施		委託		補助 負担 その他 ()		
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a)当初予算額	4,791	4,908	4,248	3,867	4,778
		(b)予算現額	4,452	4,008	4,248	4,198	4,168
		(c)増減額(b-a)	339	900	0	331	610
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A.計(b+d)	4,452	4,008	4,248	4,198	4,168
	B.執行済額		4,442	3,787	3,604	3,854	4,021
	うち交付金充当額		3,561	3,029	2,883	3,083	3,217
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.8%	94.5%	84.8%	91.8%	96.5%
予算の状況の説明		授業実施に係る村外サポーターの来島人数が、見込み人数よりも減った。また、商品開発に関わる企業が、近隣市町村であったことにより送料等を抑える事ができ、610千円の予算減額を行った。147千円は不用額。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	商品開発を通じた生徒への研修	目標	()	(研修の実施)	(研修の実施)	()	
		実績		研修の実施	研修の実施		
	パッケージデザイン決定	目標	(デザイン決定)	(デザイン決定)	(デザイン決定)	()	
		実績	デザイン決定	デザイン決定	デザイン決定		
	商品開発・職場体験を通じた商品の発表会	目標	(発表会実施)	(発表会実施)	(発表会実施)	()	
		実績	発表会実施	発表会実施	発表会実施		
	本島への職場体験(商品の販売)及びマナー講座	目標	(実施)	(実施)	(実施)	()	
		実績	実施	実施	実施		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・村内中学1年生が県内企業と共同で地域資源の掘り起こし等、特産品を通じた研修を実施し、特産品の商品開発からパッケージデザインの決定まで一連を通して実施した。 ・村内中学2年生は、本島にてマナー講座及び職場体験を実施した。また職場体験の一環として特産品フェアを開催し、平成30年度に自ら開発した特産品の販促体験を実施した。 ・中学1年生及び2年生共に、商品開発・職場体験を通じた発表会を実施した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	キャリア教育を受けた児童生徒へのアンケートで、働くことへの興味・関心が湧いたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(85%以上)	()
		実績		83%	81%		
進捗状況説明	当該事業の検証について、働くことへの興味・関心が湧いたかアンケートを実施したところ、目標値の80%を上回り81%であり、目標達成となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(キャリア教育を受けた児童生徒へのアンケート) ・アンケート実施の結果、働く事への興味関心が湧いたと回答する生徒が多数を占めており、本事業の効果が得られていると考えられる。また、自らが開発した商品を販売することによる仕事への関心等を持つきっかけとなったことが目標達成の要因であると考えられる。	(キャリア教育を受けた児童生徒へのアンケート) ・本事業の性質上、直ぐに効果発現が得られるものではないため、継続的な取り組みが必要である。
今後の取り組み方針		
(キャリア教育を受けた児童生徒へのアンケート) ・引き続きキャリア教育に取り組むとともに、事業内容のとおり島で起業する力を身につけさせるための授業プログラムの構成を行っていく。また、地域・学校・行政が一体感を持って取り組めるよう、情報を共有し、さらに関心を高める。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については、この事業に突起した企業等を選択、継続的な事業であるため、専門性が高く妥当である と考える。 ○予算規模は事業内容を精査したところ、事業内容に 資する規模と判断したため妥当と考える。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要 なものなのか等について支出に関する書類により確認 し、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		伊平屋村									
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	4-	幼稚園預かり保育支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ					
担当部課名	伊平屋村教育委員会	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実					
事業内容	預かり保育の実施により保護者の育児における負担感の軽減を図るため、嘱託保育士を配置する。										
効果発現年度	当年度		後年度(年度)								
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他()					
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度	
		(a)当初予算額	1,700	2,268	2,268	2,268	2,268	2,268	2,268	2,268	2,268
		(b)予算現額	2,066	2,268	2,268	2,268	2,268	2,268	2,268	2,268	2,268
		(c)増減額(b-a)	366	0	0	0	0	0	0	0	0
		(d)繰越額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	A.計(b+d)		2,066	2,268	2,268	2,268	2,268	2,268	2,268	2,268	2,268
	B.執行済額		2,066	2,208	2,157	2,201	2,165	2,201	2,165	2,165	2,165
	うち交付金充当額		1,360	1,766	1,725	1,760	1,732	1,760	1,732	1,732	1,732
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	97.4%	95.1%	97.0%	95.5%	97.0%	95.5%	95.5%	95.5%
予算の状況の説明		当事業に不適と判断した経費は交付対象外としたため執行率は下がっているが、概ね計画通りに事業執行できた。									
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況								
			H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		
	嘱託保育士を1名配置する		目標	(1名)	(1名)	(1名)	(1名)	(1名)	(1名)	(1名)	(1名)
			実績	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名
		目標	()	()	()	()	()	()	()	()	
		実績									
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(27年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)				
	保護者へのアンケートで、預かり保育により育児の負担感が軽減されたと感じたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。		目標	()	(80%以上)	(80%以上)	()	()			
			実績		軽減された100%	軽減された100%					
			目標	()	()	()	()	()			
		実績									
進捗状況説明	・13名(幼稚園在籍幼児17名)の預かり保育対象児童に対して預かり保育を実施し、すべての保護者が育児の負担感が軽減されたと回答し目標を達成できた。										

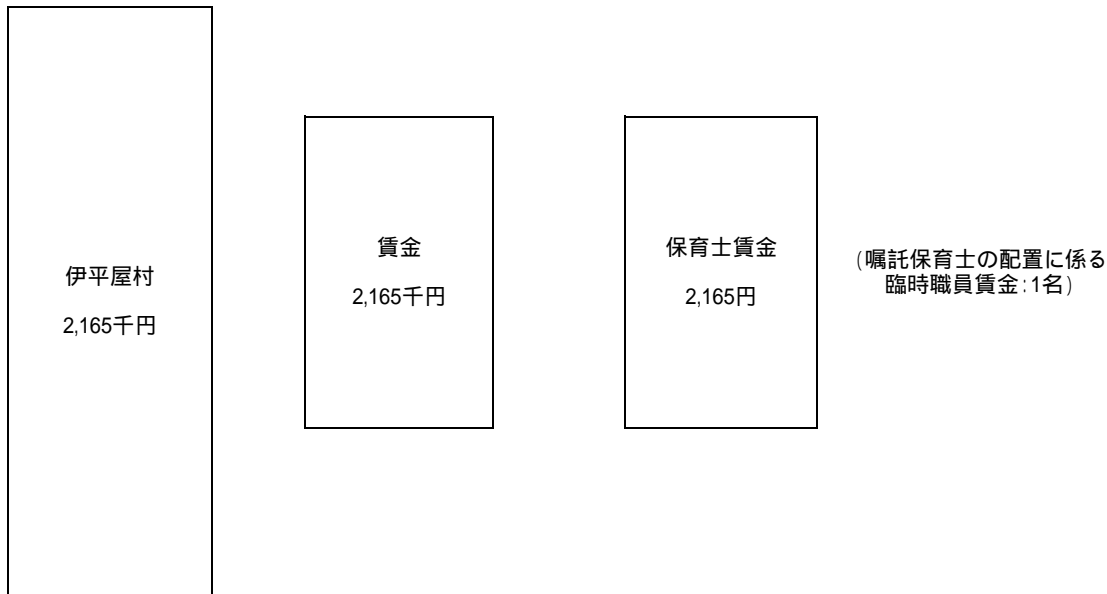
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	通常経費と本事業経費の棲み分けを行って、事業の適正化を図る必要がある。	長期休業期間等の預かり保育の受け入れがないときの活動計画の立案をしっかりと行うことで、通常経費と本事業経費の棲み分けを明確にし、事業の適正化を図ることができる。

今後の取り組み方針

・預かり保育の受入がないときの活動計画を立案し、計画に沿った事業推進及び事業の適正化に取り組む。
 ・すべての保護者に育児の負担感が軽減されたと回答をいただいているが、今後予想される多様化する保護者のニーズに柔軟に対応できるよう、適正なスタッフの配置や、管理体制について適時検証を行うと共に、保護者との意思疎通を図り、相互理解を深めるよう取り組む。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,221	2,165	1,732	433	56



資金の 使途の 流れ、 費目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支出費目は保育士賃金のみであり、公募による募集を行い選定したことから妥当であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模は保育士1名の賃金であり、事業内容に見合った適正な規模である。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	保護者より預かり保育料を適切に徴収しており、受益者との負担関係は妥当である。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費目・使途は、事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。

市町村名		伊平屋村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4 -	ウェルネスいへや推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ		
担当部課名	住民課	事業実施(予定)年度	平成27年～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 - 9		
事業内容	運動習慣の啓発を図るため、フィットネスプログラム映像機器等を活用した健康イベントを実施する。							
効果発現年度	当年度		後年度(年度)					
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他()		
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a)当初予算額	4,891	3,207	4,710	2,309	1,655	
		(b)予算現額	4,107	3,207	4,250	1,317	1,196	
		(c)増減額(b-a)	784	0	460	992	459	
		(d)繰越額	0	0	0	0	0	
	A.計(b+d)		4,107	3,207	4,250	1,317	1,196	
	B.執行済額		4,107	3,149	4,149	1,317	1,144	
	うち交付金充当額		3,258	2,519	3,319	1,053	915	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	98.2%	97.6%	100.0%	95.7%	
予算の状況の説明		フィットネスプログラム映像機器のサポート団体の来島人数の減及び健康イベント実施協力者の減により、旅費、報償費等459千円を減額補正した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況					
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		
	各字公民館等において健康教室の開催。		目標	(12回)	(12回)	()	()	
			実績	45回	57回			
	年1回ウォーキング大会の開催。		目標	(2回)	(1回)	()	()	
			実績	2回	1回			
達成状況説明	健康教室を57回、ウォーキング大会を1回実施し、目標を達成した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R3年度	目標値(年度)	
	各種健康イベントへの総参加者数600人以上		目標	()	(600人以上)	(600人以上)	()	()
			実績		602人	589人		
			目標	()	()	()	()	
			実績					
	進捗状況説明	新型コロナウイルスの影響で健康イベントが中止及び規模縮小になったため、目標を達成できなかった。						

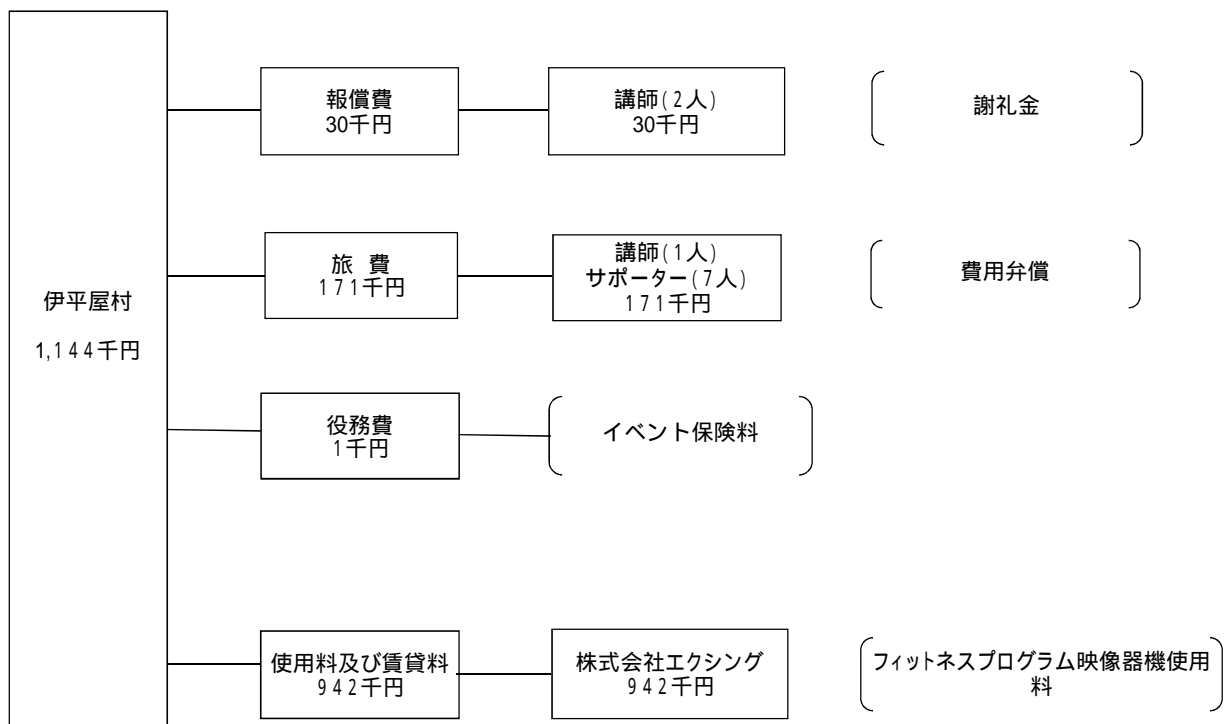
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> これまで参加したことのない住民への健康啓発が必要である。 地域の婦人会が主体となって健康教室を実施したが、フィットネスプログラム映像機器の設置や貸借、実施場所の確保に手間をとり開催できないことがあった。また、プログラムの内容によって、ヨガマットやステップ台等が必要なため、備品管理も手間をとる要因となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事等と協力して実施することで、多くの住民への健康啓発を図る。 フィットネスプログラム映像機器や必要備品を常設する場所を選定し、団体や個人が利用しやすい環境を整備する。

今後の取り組み方針

・地域行事等でフィットネスプログラム映像機器を活用してもらえよう関係機関との連携を強化し、健康啓発を継続して実施する。
 ・住民主体で健康教室の開催や健康づくりを実践できるよう、実施場所やフィットネス映像機器の設置等に手間のとらない環境を整備する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
1,144	1,144	915	229	0



資金の流 れ、費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支出先は、フィットネスプログラム映像機器の借上料、機器サポート団体や専門的な講師を招いた際の旅費及び謝礼であり、本事業の運営に必要なため妥当である。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模は、事業内容にあった機器借上料や講師謝礼等であり真に必要な経費を支出したため適正である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	費目・使途については、精算段階等で確認し、事業実施に必要なものであったと判断した。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		伊平屋村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4 -	自動車航送コスト負担軽減事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-ア	
担当部課名	総務課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	交通・生活コストの低減	
事業内容	本村と島外を結ぶ唯一の交通手段である村営フェリーにおいて、住民生活を圧迫する要因となっている自動車航送運賃コストを軽減し定住環境の改善を図るため、その一部を支援する。						
効果発現年度	当年度		後年度(年度)				
実施方法	直接実施		委託		補助 負担 その他 ()		
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a)当初予算額	45,607	55,104	57,100	63,562	67,064
		(b)予算現額	52,933	56,767	65,074	67,993	70,869
		(c)増減額(b-a)	7,326	1,663	7,974	4,431	3,805
		(d)繰越額	0	0	0		
	A.計(b+d)		52,933	56,767	65,074	67,993	70,869
	B.執行済額		52,933	56,635	64,464	67,993	70,027
	うち交付金充当額		42,946	45,308	51,571	53,394	56,021
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.8%	99.1%	100.0%	98.8%
予算の状況の説明		前年度と同額程度の利用を想定し当初予算を計上したが、想定を上回る利用があったため補助金を3,805千円増額補正した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	自動車航送運賃の低減 R1年度:年間6,398台 (H26年度:4,570台)	目標	(自動車航送運賃の低減年間5,448台)	(自動車航送運賃の低減年間5,496台)	(自動車航送運賃の低減年間6,240台)	(自動車航送運賃の低減年間6,398台)	
		実績	5,455台	6,168台	6,493台	6,608台	
			目標	()	()	()	
			実績				
達成状況説明	設定した活動目標は達成できた。対前年と比較すると12ヶ月中6ヶ月が増加となっており、村民への事業周知が浸透してきていること、また村民の経済活動の活性化も図られていると考える。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	沖縄本島へ移動しやすい環境の構築が図られたか(80%以上)を含め、島民へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	()	()
		実績		97%	100%		
			目標	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	島民へのアンケートを実施した結果100%の人が図られたと感じると回答している。このことから当事業において、医療機関への通院や冠婚葬祭、教育関係行事等沖縄本島における移動手段が確保されたことにより、村民の経済的負担の軽減が図られ、定住環境の改善がなされたと考える。						

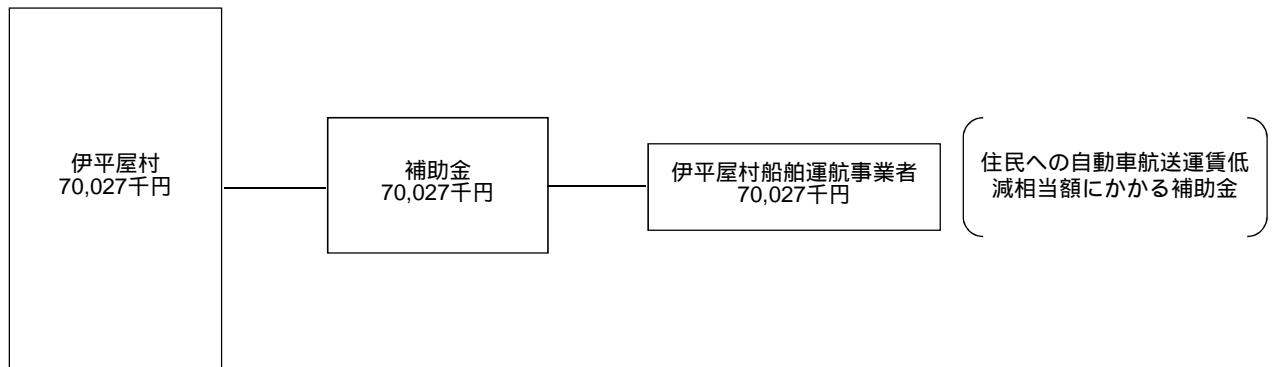
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・チケット購入時、車両を乗せる場合の確認および確認済みの押印や、乗船時のフェリー船員による押印確認等、2重チェックを行うことで、乗船予約なしの車両乗り入れは減ったものの、予約済み車両の駆け込み乗船(出発5分前等)により、満車時のトラブルとなっている。</p>	<p>・車両乗船に係るチケット購入について、予約済み車両は出発30分前までに購入、予約なし(キャンセル待ち)車両は出発10分前から購入可能とする旨を村民や観光客へ周知徹底し、運用することで、安全な車両乗船と乗船作業の効率化を図る。</p>

今後の取り組み方針

・車両予約確認体制の継続とチケット購入に係る運用体制を強化し、運天港と本村フェリー及び前泊港3方で予約情報についての情報共有を行い、住民および観光客へチケット購入についての運用に理解と協力を得ることで、より安全・安心で効率的な車両乗船が行えるよう取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
70,027	70,027	56,021	14,006	0



資金の流 れ、費 目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については公益性があり妥当である。 ○予算規模については、増額補正があったものの概ね妥当である。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○受益者負担については沖縄離住民等交通コスト負担軽減事業を参考にしているため妥当である。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業目的達成において支出等に関する書類により確認し適正であった。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村
------	------

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4 - 離島食品・日用品輸送費等支援実証事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 3 - (11) - ア
担当部課名	観光交通課	事業実施(予定)年度 平成28年度～令和元年度	交通・生活コストの低減
		沖縄振興基本方針該当箇所	- 9

事業内容	離島における割高な生活コストの低減を図るため、沖縄本島から伊平屋島、野南島へ郵送される食品や衣類・履物、日用品、衣料品、保険医療用具・器具、家庭用電気製品等の輸送経費及び作業経費の支援を実施する。
------	--

効果発現年度	当年度 後年度(年度)
--------	--------------

実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他()
------	----------------------

		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	5,080	3,546	3,892	7,266	
	(b)予算現額	1,903	3,546	3,892	7,216	
	(c)増減額(b-a)	3,177	0	0	50	
	(d)繰越額		0	0	0	
	A.計(b+d)	1,903	3,546	3,892	7,216	
	B.執行済額	1,392	3,132	3,223	6,865	
	うち交付金充当額	1,113	2,506	2,578	5,492	
	次年度繰越額	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	73.1%	88.3%	82.8%	95.1%	
予算の状況の説明	年度末の事業者からの実績報告・領収書確認等が間に合わないため、3月分に関して3/22で締めて実績報告を行っている。その為、3/23以降分に関しては、単独予算で対応しているため不用額が生じている。					

活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況			
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
食品、衣類、履物、日用品、医薬品、保健医療用具、器具、家庭用電気製品等の輸送経費及び作業経費の支援	目標	(支援の実施)	(支援の実施)	(支援の実施)	(支援の実施)
	実績	支援実施	支援実施	支援実施	支援実施
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	村内の主な5店舗で販売している食品、日用品等の輸送費の支援を実施した。				

成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
		生活必需品等の価格について、沖縄本島を100とした場合の本村の指標における事業実施前との差 - 10.3ポイント以下	目標	()	(0ポイント以下)	(0ポイント以下)	(- 10.3ポイント以下)
		実績	128.9ポイント	- 5.6ポイント(123.3ポイント)	- 10.3ポイント(118.6ポイント)	- 7.6ポイント(121.3ポイント)	
		目標	()	()	()	()	()
進捗状況説明	何度当初より、村内の主な店舗が登録店舗となり事業を展開していたが、当年度は1店舗が休業し、5店舗でのスタートとなった。村内全域での生活必需品等の価格低減が図れてはいるが、価格指数は事業開始前(H27年度)の128.9ポイントに対し、本年度は121.3ポイントで7.6ポイント低い、昨年度118.6ポイントに対し、2.7ポイント高い状況となり、目標としていた「- 10.3ポイント以下」を達成することはできなかった。						

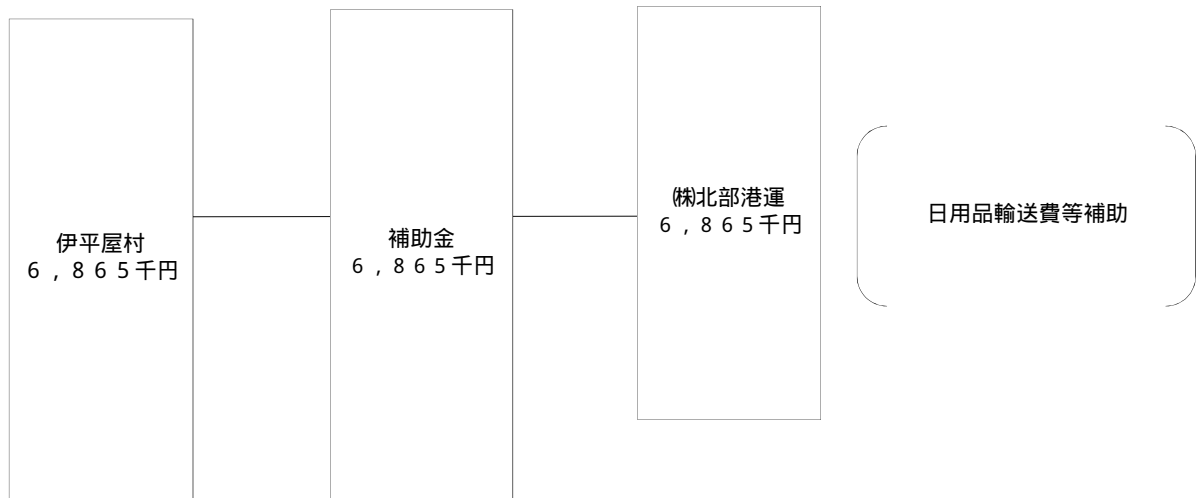
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・本事業の取組内容は、地域行政懇談会等、継続的に情報発信したことで、購買者の認知も高まってきた。しかし、近年では、比較的若齢購買者がインターネットやコープ、車輛の移動による島外でのまとめ買いなど、村内消費も減少傾向にあり村内店舗利用者が十分でなかったため、目標指数 - 10.3ポイント(118.6ポイント)を下回る結果となった。</p>	<p>・本事業に対する消費者の認知度は高まっては来ているが、村内主要店舗の島内消費量に限りがあるため仕入れ量も限られてくる。安価で仕入れする市場改革や価格設定を行い、消費者へ提供する必要がある。</p>

今後の取り組み方針

・近年の傾向として、インターネット通販やコープ、車輛移動による島外でのまとめ買いなど島内店舗での消費の減少により、事業効果が低迷し効果検証が難しくなっていることから、事業継続について検証を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
6,865	6,865	5,492	1,373	0



資金の流 れ、費 目、 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
			支出先の選定方法は妥当か。	<p>選定先については、本村の入り口である港において、輸送業を営んでいる企業は1社のみで適正であった。予算規模は事業内容に見合った適正な規模である。費目、使途は事業目的に即し、必要はものに限定されている。</p>
			予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		